

呼気 NO(一酸化窒素濃度測定)				S107	
				担当部署	
呼気 NO				生理	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→呼吸機能検査→呼気 NO(一酸化窒素濃度測定)			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		1) ウイルス感染症 2) アレルギー性鼻炎			
検査受付時間		8 : 45～17 : 30			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		1) スパイロ検査より前に行う。 2) 検査前には水・カフェイン・アルコールは控えてもらう。 3) 検査当日は喫煙を控えてもらう。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	人体(呼気ガス)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		ベッド可能			
検体受入不可基準		1) 肺活量が 1000ml 以下の患者 2) 一定の強さで呼気を 10 秒間持続できない患者 3) 検査に同意を得られない患者			
保管検体の保存期間		特記事項なし			

検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		30 分			
生物学的基準範囲		正常上限値 37ppb			
臨床判断値		該当なし			
基準値				単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因		年齢：小児では年齢とともに NO 値が上昇する。 呼吸機能検査：検査前に呼吸機能検査を反復して施行されると数値が一過性に低下する。 閉塞性換気障害：air trapping により NO 値が見かけ上低下する。 飲食物：レタスなどの硝酸塩含有物を摂取後 2 時間で NO 値が上昇する。水、カフェインで上昇し、アルコールで低下する。 日内変動：喘息悪化時間帯に NO 値が上昇する。 喫煙：喫煙により NO 値が低下する。			
臨床的意義		下気道における好酸球浸潤(炎症)を非侵襲的に捕捉することができる。FeNO 上昇で捕捉された気道炎症は、喘息診断の目安となる。FeNO 測定は好酸球性気道炎症を反映する指標の 1 つであり、未治療の喘息患者では一般に高値を示す。さらに、吸入ステロイド薬などの抗炎症薬の投与により低値となるため、気道炎症の評価において有用である。			